



東北ハイテク研セミナー

オタネニンジンの復権と新しい展開に向けて

「本セミナーは、農林水産省が実施する「知」の集積による産学連携支援事業により行われます。」

I 趣 旨

オタネニンジンは今から300年ほど前の享保年間に会津藩により生産が奨励されて以来、会津地方の特産品として定着してきた。

また、オタネニンジンは多くの健康機能性成分を含有することで知られているが、最近さらに新規の用途開発を目指した研究の展開により、オタネニンジンの需要のさらなる増加が期待されている。

しかし、栽培には高度な技術を要し、栽培期間が4年以上と長く、加えて生産者の高齢化のため、平成2年には150tを超えていた生産量が、平成29年には10tに満たないほどと、四半世紀の間に著しく減少している。

そこで、オタネニンジンの今後の生産拡大に向けて、現状と栽培上の問題点や新しい用途などに関する情報を共有する。

II 日 時 : 令和元年8月30日(金) 13時30分～15時30分

III 場 所 : 会津よつば農業協同組合 あいづ地区本部3階第1会議室
福島県会津若松市扇町35-1

IV 主 催 : 農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室
東北地域農林水産・食品ハイテク研究会
福島県農業総合センター

後 援 : 公益社団法人 農林水産・食品産業技術振興協会 (JATAFF)

V 内 容

1. 挨拶

東北地域農林水産・食品ハイテク研究会 事務局長
福島県農業総合センター 所長

門間 敏幸
天野 亘

2. 講演

司 会 福島県農業総合センター会津地域研究所 所長

江川 孝二

1) 福島県におけるオタネニンジン生産の現状

福島県農業総合センター会津地域研究所 研究員

長浜 友佳

2) オタネニンジン生産に向けた研究状況と技術的課題

農研機構東北農業研究センター農業放射線研究センター 上級研究員

久保 堅司

3) オタネニンジンの薬用成分に着目した新しい利用技術

福島県立医科大学会津医療センター漢方医学講座 助教

秋葉 秀一郎

3. 意見交換

VI 参集範囲 : オタネニンジン生産・流通・利用に関係する者、行政・研究・普及関係者など
参加費は無料です

VII 参加申し込み先 : 福島県農業総合センター 企画経営部 企画技術科
電 話 024-958-1700 F A X 024-958-1726